

「選択」について

どの分野でもその業界で固有の意味を持つ単語が少なからずあります。TNT2006:72 では技術用語として、いくつか新しい単語を追加しています。これらの単語については、TNT 製品と一緒に配布される「Glossary for Geospatial Analysis(地理空間解析用語集)」でさらに詳しく定義されています。

表示 TNT 製品において**表示**とは、1つの〈表示〉ウィンドウに1つ又は複数のレイヤをまとめてレンダリングすることです。表示には2次元グループ、3次元グループ、画面用レイアウト、印刷用(ハードコピー)レイアウトがあります。そのうち、**アクティブな表示**は太字で示されます(右図の Group2 がアクティブな表示です)。関係する表示画面のツールを選んで、拡大や縮小、その他の操作を行えます。〈表示マネージャ〉ウィンドウにあるレイヤ追加など多くの選択肢は、アクティブな表示やその中のアクティブなグループに適用されます。表示では、〈表示マネージャ〉中の表示グループやレイアウトと〈表示〉ウィンドウが結びついています。下の説明は、ウィンドウを構成する要素について階層的に整理したものです。



I. 〈表示マネージャ〉ウィンドウ

- A. タイトルバー
- B. メニューバー
- C. ツールバー
- D. 一覧

1. 表示グループ(単独グループ)

- a. レイヤ
 - 1) 要素
 - a) テーブル
 - b) 凡例

2. 画面用レイアウト

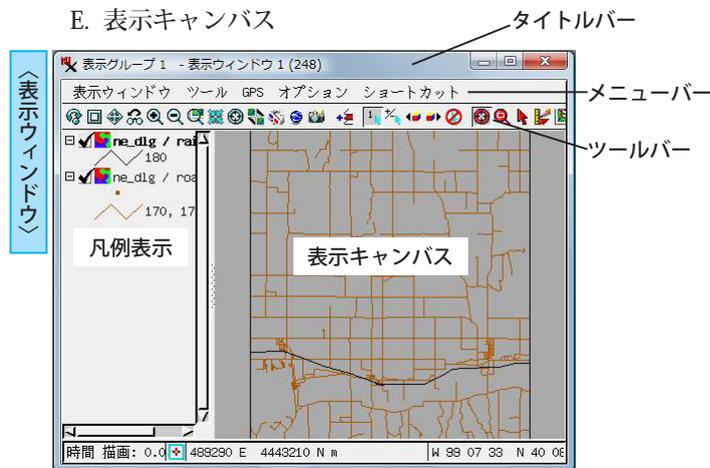
- a. グループ(2次元/3次元)
- b.(上記の「a. レイヤ」と同じ)

3. 印刷用レイアウト

- a. グループ(2次元/3次元)
- b.(上記の「a. レイヤ」と同じ)

II. 〈表示〉ウィンドウ

- A. タイトルバー
- B. メニューバー
- C. ツールバー
- D. 凡例表示
- E. 表示キャンバス



選択(マーク/セレクト/ハイライト) 以前は、“選択(セレクト)”という言葉で、表示する要素の種類を〈表示マネージャ〉ウィンドウで選択したり、〈表示〉ウィンドウでマウスやクエリを使って要素を選択することの両方に使用していたため、どちらのウィンドウか分からないことがありました。TNT2006:72以降、“選択(セレクト)”というのは、〈表示マネージャ〉での操作に対して使います。マウスやクエリを使って要素を選択したり、テーブルからレコードを選択する行為は“マーク(選択)”になります。マークされた要素は、次のアクションを促すため色が変わります。“ハイライト”も“選択(セレクト)”と同じ意味で使われてきました。“ハイライト”という言葉はマウスカーソルを要素の上に乗せた時に一時的に色が変わるような、瞬間的な動作に使われています。〈表示〉ウィンドウの[オプション(Options)]>[カラー(Colors)]を選ぶことによって、〈カラーエディタ〉ウィンドウが開き、マークされた要素、アクティブ要素、ハイライト要素の色を変えることができます。



- “要素”の選択 → マーク
- “メニューやアイコンボタン”の選択 → セレクト